

農業技術 プリズム

西南暖地におけるアスパラガス栽培は、年間に2季、春芽(2~4月)、夏芽(5~10月)を収穫する半促成長期取り栽培です。アスパラガスは雌雄異株であり、苗の段階では性別の判定が難しく、定植後一定期間成長した後には咲く花を見て雌雄を判別するしかないため、生産現場では同一ハウス内に雌株・雄株が混在して栽培されています。

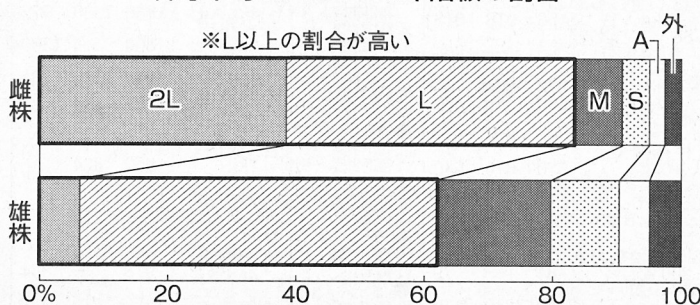
これまで収量性では雌株が優れるといわれてきましたが、収穫若莖の太さでは雌株が優れることが分かっています。雌株を雄株と混植すると結実により養分を消費するため、雌株だけを隔離して特性に応じた管理を行うことで、収量性や作業性、収

益性などの優位性を発揮させることが期待できます。そこで品種「UC157(ウエルカム)」を用い、定植前の幼苗期にDNAレベルで雌雄を判別した後、隔離栽培して、雌

アスパラガス栽培

雌雄間の収量性検討 雌株春芽で特に有利

春芽平均2011~13年階級の割合



雌雄間の収量性を検討しました。その結果、雌株は雄株より収穫若莖が太いだけでなく、L級以上の太もの割合が高く、販売可能な収量も高いことが判明しました。この傾向は、特に春芽で強く現れました。寒冷地の長

期取り栽培でも同様の傾向が見られ、西南暖地から寒冷地に向いた国内の長期取り栽培において雌株の有利性を示すものと考えられます。今後は、雌株苗の低コスト大量生産技術や雌株専用栽培技術の開発を行っていきます。(県農林技術開発センター・陣野信博)